

- 43 -

第 16 回ダニと疾患のインターフェースに関するセミナーの議事録
 Proceedings of 16th Seminar on Acari-Diseases Interface 2008 in Wakayama
 SADI ホームページ [<http://sadi.workarea.jp/>]

第 16 回集会 (熊野古道大会) は以下のとおり開催された。

1. 開催要領

ホスト：玉置幸子 (玉置病院)

期 日：2008 年 5 月 30 (金) ～6 月 1 日 (日) の 3 日間, 任意の時間帯の参加可能

会 場：紀南文化会館 (田辺市新屋敷 1 Tel 0739-25-3033)

南方熊楠顕彰館 (田辺市中屋敷 1 Tel 0739-26-9909)

費 用：参加費 1,000 円, 疫学ツアー 1,000 円, 懇親会 5,000 円

2. プログラム

1 日目 5 月 30 日 (金)

15:00 開会 組織委員会からオリエンテーション

ホスト挨拶と講演

「田辺市周辺におけるツツガムシ病発生状況 (1989-2007)」玉置幸子

15:30 一般演題

及川陽三郎：石川県の野鼠のバベシア症について

岩渕千太郎：日本国内で 9 年ぶりに発見された野兎病について

藤田博己：国内の野兎病の発生状況

三谷春美：ツツガムシのミトコンドリア遺伝子 解析

岩崎博道：和歌山県田辺市に確認されたツツガムシ病の臨床的特徴

馬原文彦：Vector and epidemiology of *Orientia tsutsugamushi*

17:00 ポスター説明および休憩

矢野泰弘：東シナ海地域のツツガムシ相

高田伸弘：タテツツガムシ分布相の画像化で分かること

藤田博己：ツバメヒメダニから分離されたリケッチア 2 種

17:15 一般演題

武田公一：日本紅斑熱の動物実験感染と和歌山県特産品による抑制作用について

小原真弓：富山県のマダニ相および紅斑熱群リケッチア検出

安藤秀二：鳥類関連マダニ材料からリケッチア検出の多様性

18:30 科研班会議

2 日目 5 月 31 日 (土)

8:00 バスによる疫学ツアー (7:50 に紀南文化会館前集合)

9:00 中辺路 (なかへち) 道の駅→語り部の案内で熊野古道に行く→なかへち美術館
 (希望者は野長瀬一族の墓), なかへち美術館前で昼食

13:00 歓迎講演

「熊楠と田辺」 中瀬喜陽 (南方熊楠顕彰館館長)

13:30 休憩 (南方熊楠顕彰館の見学)

14:00 シンポジウム 司会 高田伸弘, 川端寛樹

「ダニ、病原体そして野生動物の絡み合い—動物生態学者を交えて—」

呉 弘植：韓国南部の動物相，特に小型哺乳類について（招待講演）

田原研司：島根半島のリケッチア症疫学

鈴木正嗣：ニホンジカの増加・分布拡大と生息環境の変化（招待講演）

鈴木和男：ダニを運ぶ新たな野生動物アライグマ—田辺市での捕獲実績—

高田伸弘：韓国と日本列島のはざま対馬—マダニと宿主動物と媒介病原体について予備的考察—〈ポスター〉

16:00 休憩

16:15 一般演題

井上 快：丹沢の鹿および寄生節足動物における *Bartonella* 属菌 DNA の検出状況

本田俊郎：薩南諸島（トカラ列島）の野鼠類とダニ類からの病原体検索

大橋典男：国内に潜在するリケッチア関連感染症と媒介マダニ種について

猪熊 壽：北海道と沖縄県の牛末梢血から検出された *Anaplasma phagocytophilum* と *Anaplasma bovis* DNA

17:15 一般演題

浅野重之：野兎病の病巣は欺くして形成される

高野 愛：輸入爬虫類および爬虫類寄生マダニから見出された複数の新型ボレリアから考えられた，ボレリア—マダニ間の共分岐進化に関する新見解

馬場俊一：マダニ刺咬の 1 ヶ月以降に IgE 抗体陽性となり診断確定したライム病の例

18:30 懇親会，併せて馬原文彦博士の第 43 回小島三郎記念文化賞祝賀

3 日目 6 月 1 日（日）

9:00 一般演題

中山恵介：*Orientia tsutsugamushi* における MLST 解析，および菌体構成蛋白質に対するペプチド抗体の作成状況について

中山恵介：*Orientia tsutsugamushi* 株間における比較ゲノム解析

川森文彦：リケッチア関連感染症の早期診断法確立を目指した遺伝子検出法の検討

高 娃 鹿児島島のマダニから検出されたリケッチア関連細菌 DNA の分子遺伝学的解析

松本高太郎：PCR—RFLP 法を用いた日本国内の紅斑熱群リケッチアの鑑別

玉熊桂子：ホルマリン固定パラフィン包埋皮膚生検サンプルを使用した日本紅斑熱の迅速診断 real-timePCR 法と免疫組織化学法の比較検討

10:00 休憩

10:45 一般演題

田島朋子：ヤマトマダニ由来の *Ehrlichia* HF565 のダニによる媒介

鳥 日 岡：日本のアナプラズマ細菌における主要外被膜蛋白遺伝子群の発現領域解析

川端寛樹：ライム病ボレリア形質転換技術の確立とその応用—トランスポゾン変異法を用いた新規病原因子の探索—

11:30 閉会 事務連絡（組織委員会）

3. 登録参加者名簿（2008 年 5 月中旬現在の登録簿による；開会前日までの登録や当日参加を含めると 70 数名となった）

安藤秀二 国立感染症研究所
青地美南 静岡県立大学

浅野重之	磐城共立病院
馬場俊一	ばば皮ふ科
同夫人	
榎本大介	メリアル・ジャパン
古川英嗣	静岡県立大学
福長将仁	福山大学
藤田博己	大原研究所
古屋由美子	神奈川県衛生研究所
福井貴史	千葉科学大学
呉 弘植	济州大学
東 冬彦	ひがし内科クリニック
樋口 晃	メリアル・ジャパン
本田俊郎	鹿児島県環境保健センター
猪熊 壽	帯畜畜産大学
稲荷公一	愛媛県衛生環境研究所
井上 快	日本大学
岩渕千太郎	旭中央病院
岩崎博道	福井大学
市丸奈穂子	福井大学
金子紀子	山形県衛生研究所
岸本寿男	国立感染症研究所
川端寛樹	国立感染症研究所
川森文男	静岡県環境衛生研究所
高 娃	静岡県立大学
角坂照貴	愛知医科大学
川島 遥	千葉科学大学
川谷慶太	千葉科学大学
國正紀彦	國正医院
馬原文彦	馬原医院
同夫人	
森田裕司	国保明神診療所
森田貴久子	国保明神診療所
松本高太郎	帯広畜産大学
松本 淳	日本大学
丸山総一	日本大学
三谷春美	福山大学
水本博章	水本内科クリニック
棕田昌友	メリアル・ジャパン
永井 勲	玉置病院
那須征太郎	那須医院
中山恵介	宮崎大学
西嶋洋典	玉置病院
西本英一郎	西本内科医院

野上貞雄	日本大学
及川陽三郎	金沢医科大学
小河正雄	大分県衛生環境研究センター
小河明美	大分県衛生環境研究センター
大滝哲也	金沢大学
大滝倫子	九段坂病院
大橋典男	静岡県立大学
大麻敬次	メリアル・ジャパン
小沼 操	北海道大学
小原真弓	富山県衛生研究所
芹澤委子	静岡県立大学
島津幸枝	広島県保健環境センター
佐々木由枝	広島県環境保健センター
関根俊昭	シマ研究所
鈴木和男	田辺市ふるさと自然公園センター
鈴木正嗣	岐阜大学
下山田順	メリアル・ジャパン
坂田義美	メリアル・ジャパン
高尾信一	広島県環境保健センター
高野 愛	岐阜大学
高藤晃雄	京都大学
玉置信彦	玉置医院
玉置幸子	玉置病院
田中美実穂	静岡県大
田中伸哉	メリアル・ジャパン
高田伸弘	福井大学
同夫人	
田原研司	島根県保健環境研究所
多村 憲	前新潟薬科大学
玉熊桂子	藤田保健衛生大学
武田公一	和歌山県医科大学
田島朋子	大阪府立大学
堤 寛	藤田保健衛生大学
辻 薫	辻内科医院
鳥日囧	静岡県立大学
呉 東興	静岡県立大学
宇都宮洋才	和歌山県医科大学
柳原保武	九州大学
柳川卓弥	大塔三川診療所
矢野泰弘	福井大学
山本正悟	宮崎県衛生環境研究所
吉田真一	九州大学
吉田芳哉	シマ研究所

4. 次回開催の予告

次回開催の予告

ホスト：高田伸弘（福井大学医学部）

期 日：2009年6月12日（金）～6月14日（日）の予定

会 場：多田記念大野有終会館（大野市天神町1番19号 Tel0779-65-8766）

編集や事務連絡などは下記まで

- ・高田伸弘（福井大学医学部）

〒910-1193 福井県吉田郡永平寺町松岡下合月23-3

Tel 0776-61-8330（直）

Fax 0776-61-8330（直）

e-mail acari アットマーク u-fukui.ac.jp

- ・藤田博己（大原研究所）

〒960-0195 福島県福島市鎌田字中江33

Tel 024-554-2001(内235)

Fax 024-554-6879

e-mail fujitah7knu アットマーク y8.dion.ne.jp

SADI 組織委員会

医ダニ学担当

- ・高田伸弘，矢野泰弘（福井大学医学部）

- ・藤田博己（大原研究所）

臨床医学担当

- ・馬原文彦（馬原医院）

〒779-1510 徳島県阿南市新野町信里町6-1

Tel. 0884-36-3339 Fax. 0884-36-3641

- ・大滝倫子（九段坂病院）

〒102-0074 千代田区九段坂南2-1-39

Tel. 03-3262-9191 Fax.03-3264-5397

微生物学担当

- ・岸本寿男（国立感染症研究所）

〒162-8640 東京都新宿区戸山1-23-1

Tel. 03-5285-1111 Fax. 03-5285-1208

- ・吉田芳哉（株式会社シマ研究所）

〒174-0063 東京都板橋区前野町3-6-10

Tel. 03-3966-2283

後 記

去年の大会は世界遺産登録を囑望される綾の照葉樹でしたが、今年は世界遺産になっている同じ暖帯環境としての熊野古道の大会でした。紀伊半島は豪雨で知られますが、会期中には雨のうちに入らない程度のお湿りがさっと流れた程度ですみ、玉置病院総ス

タッフでの賄いもいただき、セミナーはここに記載されておりますように充実した内容で終えました。旧田辺市に集中してツツガムシ病が発生、一方、日置川をはさんで半島南端地域では紅斑熱ばかりが発生するという特徴的な疫学、これは西の日置川と東の熊野川の各水系で隔離された生態系に由来すると考えるのが自然でしょうが、とにかく我国有数のリケッチア症多発地を形成し、さらにアナプラズマほかの感染症も潜在が推測できるという、これがかの巨人をも魅了してやまなかった紀伊半島の自然の奥深さでしょうか。そうです、この地に滞在してますと、いつも頭の片隅から離れず、背後から見据えられているような感覚に捉われますのが、巨人「南方熊楠」です。我々とは扱う研究対象が違い、年金、いや俗っぽい間違いで申し訳ありません、「粘菌」というものですが、フィールドワークの大先達にて今でも敵う方などおられません。この方がもしダニを扱っておられたなら、少なくとも生態分類学の分野では終戦前にも今のレベルに達していたのではないかと、恐ろしい気がします。大会の後で半島南端の古座川町を回って三重県志摩半島までマダニ採集に参りましたが、ハタを振るたびに“おい、うまいこと採れるか、しかし、それじゃダメだな”というダミ声が聞こえるようで（お写真を拝見するに、たぶん、ダミ声ではなかったかと）・・・

この大会に、韓国済州大学（動物生態学）の呉先生をお招きした理由は、学振科研のカウンターパートとして今後も共同いただくためということと、来年は済州島で SADI 大会を開催いただくため下見を願う意味もあったのですが、しかし済州島で開催となりますと、隣国であっても渡航の手続きが大変面倒な公務員の方々、あるいは国内対象のセミナーとして大義名分が立ちずらく参加者が限定されることなど考え合わせますと、時期尚早ということで見送りになりました。その代わりと言っては何ですが、来年は組織委員の高田が一応の定年を迎える年でありますことから（本人は名実ともに定年を認めない）、福井で開催させるのが手っ取り早いだろうというご意見が大勢を占め、お受けせざるを得ないことになりました。来年は、北陸の地にてお会いできますことを楽しみに、今年は閉めさせていただきます。

（文責 高田伸弘）